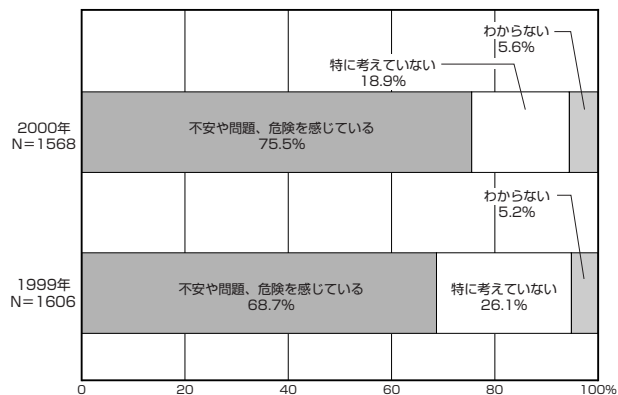


# 第3章 犯罪・セキュリティ

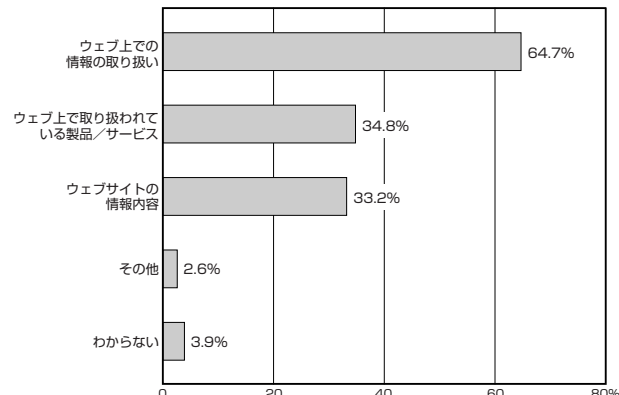
## ユーザー意識調査 2割が迷惑行為を経験

資料3-3-1 インターネット利用の際のセキュリティに対する考え方



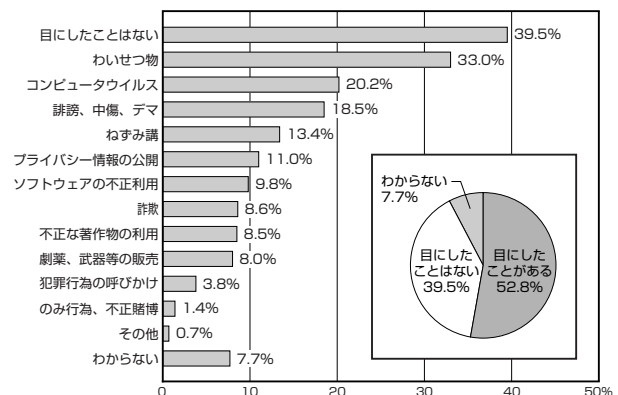
インターネット白書2000© インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料3-3-2 不安や問題、危険を感じる分野 N=1184



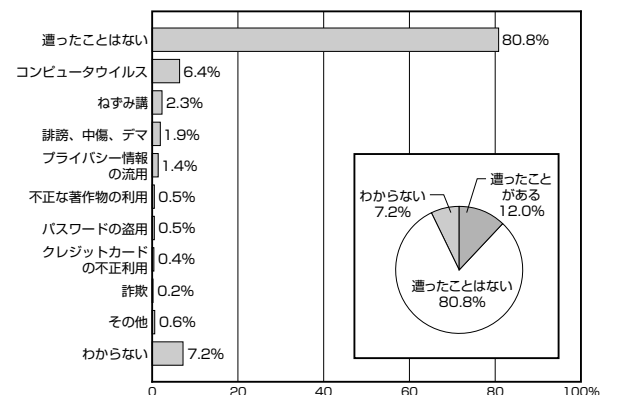
インターネット白書2000© インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料3-3-3 有害情報接触状況 N=1666



インターネット白書2000© インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料3-3-4 迷惑行為接触経験 N=1666



インターネット白書2000© インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

### 解説

1999年度はショッピングモールやネットオークションなどインターネット上での電子商取引が活発に利用され始めた年といえる。同時に大量の事故・事件が報道を賑わせているために、インターネット利用の際に「不安や問題、危険を感じている」人が75%を超えた(資料3-4-1)。

また、不安や問題、危険を感じる具体的な分野として最も多いのは1998年度と同様に「ウェブでの情報の取り扱い」で65%であった(資料3-4-2)。これは10%ほどの減少であり、各社のプライバシーの取り組みとユーザーへのアピールが改善されてきていることを物語っている。

一方、インターネットを利用する際の実際の危険度は深刻化している。有害情報を「目にしたことがある」人が52.8%もいるのだ。その内訳で最も多いのは、「わいせつ物」33%となっており、

以下「コンピュータウイルス」20%、「誹謗・中傷・デマ」19%、「ねずみ講」13%と続く(資料3-4-3)。これが実社会の数値ならどうであろう。まだまだインターネットは法整備と管理体制が整わない無法地帯なのである。

実際に迷惑行為は80%強のユーザーが「遭ったことはない」と答えているが、逆をいえば何らかの迷惑行為を受けたユーザーが全体の2割もいることになる。その内訳は「コンピュータウイルス」が6%で最も多い(資料3-4-4)。

(渡部章 日本ICSA株式会社)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)